

## GX・脱炭素分野における国際的な認知度の向上

TICAD9 の開催を通して、グローバル MICE 都市としての競争力強化と魅力向上、アフリカとのビジネスを含めた連携強化による市内経済の活性化につなげていきます。また、脱炭素への構造転換を見据えた「グリーン成長」が TICAD においても重要な論点であることを踏まえ、TICAD を通じ、横浜の脱炭素やグリーンを取組を世界にアピールするとともに、環境との共生をテーマとした GREEN×EXPO 2027 の成功とその先の脱炭素社会の実現につなげます。

### 絵が繋ぐ友好関係：横浜とボツワナの交流事業「都筑・ボツワナ交流児童画展」

TICAD IV をきっかけに、2014 年から横浜市立茅ヶ崎小学校（都筑区）とボツワナ共和国ベン・テマ小学校の3年生が自分たちの生活の様子を描いた絵を送り合う文化交流をしています。2023 年度には、10 周年を記念してアニバーサリーセレモニーやオンライン交流を実施し、事業の流れがわかる動画を作成しました。

これまでの功績により、つづき MY プラザとベン・テマ小学校が関係者を代表して2024年度外務大臣表彰を受賞しました。



オンライン交流の様子



都筑・ボツワナ交流  
児童画展 10 周年記念動画

### 野口英世アフリカ賞と横浜市のつながり

野口英世アフリカ賞は、野口英世博士の志を引き継ぎ、アフリカのための医学研究・医療活動それぞれの分野において顕著な功績を挙げた方々を顕彰し、アフリカに住む人々、ひいては人類全体の保健と福祉の向上を図ることを目的とする賞です。横浜市金沢区にある「横浜市長浜ホール」には、野口博士が勤務された当時の面影を残す「旧細菌検査室」が保存されています。2023年3月には、「第4回野口英世アフリカ賞」の受賞者が来訪され、同施設を視察されました。同ホールの記念碑には、これまでの受賞者名を刻んだネームプレートが展示されています。

第5回野口英世アフリカ賞は、TICAD9 の際に授与される予定です。



横浜市長浜ホール



野口英世アフリカ賞ホームページ

### 日本アフリカ友好横浜市議員連盟の活動

超党派の横浜市議員で構成される「日本アフリカ友好横浜市議員連盟」（会長：佐藤祐文 横浜市議員）は、2015 年の設立以降、アフリカ諸国への訪問、駐日大使等との意見交換、講演会の開催、若い世代の国際理解推進等、国内外の様々なパートナーとともに、アフリカとの交流促進・友好関係の構築に取り組んでいます。



コートジボワールでの  
小学校訪問の様子（2018 年 4 月）



在京アフリカ外交団との  
親善サッカー試合の様子（2018 年 5 月）

明日をひらく都市

OPEN × PIONEER  
YOKOHAMA



© Yokohama Visitors Guide



2024 年 8 月発行  
横浜市国際局グローバルネットワーク推進課  
〒231-0005 横浜市中区本町 6-50-10  
TEL: 045-671-2068 FAX: 045-664-7145  
E-MAIL: ki-ticad@city.yokohama.lg.jp

TICAD 9  
YOKOHAMA 2025



© Yokohama Visitors Guide

© 三溪園

# Yokohama and Africa 横浜とアフリカ



## 横浜とアフリカとの交流

横浜市は持続可能な開発目標（SDGs）の理念等を踏まえ、「選ばれる国際都市・横浜」を目指しています。アフリカとの関係においては、第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）を契機にアフリカ各国と友好的な交流を進めてきました。また、横浜の都市課題解決の経験や技術を各国と共有し、アフリカにおける質の高い都市開発や成長に協力しています。

2025年の第9回アフリカ開発会議（TICAD9）に向けて、取組をさらに充実させ、アフリカとの交流・協力を一層強化していくとともに、次世代育成、市内経済の活性化、選ばれる国際都市・横浜のプレゼンスの向上にもつなげてまいります。

## 過去3回のTICAD横浜開催の成果

### アフリカ開発会議（TICAD）と横浜開催について

アフリカ開発会議（Tokyo International Conference on African Development：略称 TICAD）は、アフリカの開発をテーマとする国際会議で、1993年以降、日本政府が主導し、国連や国連開発計画（UNDP）、世界銀行、アフリカ連合委員会（AUC）と共同で開催され、アフリカ各国の首脳級をはじめとする要人や関係者が参加しています。横浜開催は、2008年の第4回、2013年の第5回、2019年の第7回を経て、2025年8月20日～8月22日に開催される第9回アフリカ開発会議（TICAD9）で4回目となります。ホストシティとして、市民・企業の皆様とともに、会議に参加される方々を温かくお迎えし、安全で円滑な会議運営に貢献するとともに、アフリカとの交流を深め、「アフリカに一番近い都市」として、アフリカとの交流・協力を重ねてきました。



横浜市 TICAD9 特設ウェブサイト

### 開催概要及び経済波及効果（※）

#### ■第4回会議（TICAD IV）

日時：2008年5月28日～30日  
参加者：アフリカ51か国の代表他3,000名以上  
横浜への経済波及効果：15億7千万円

#### ■第5回会議（TICAD V）

日時：2013年6月1日～3日  
参加者：アフリカ51か国の代表他4,500名以上  
横浜への経済波及効果：21億5千万円

#### ■第7回会議（TICAD 7）

日時：2019年8月28日～30日  
参加者：アフリカ53か国の代表他10,000名以上  
我が国が主催する最大規模の国際会議に。  
横浜への経済波及効果：27億7千万円



提供：外務省



提供：外務省



提供：外務省

※観光庁が公開する「MICE開催による経済波及効果測定のための簡易測定モデル（MICE簡易測定モデル）」による

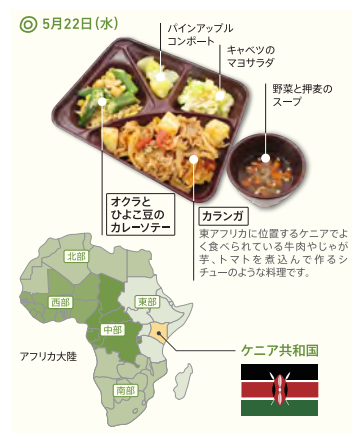
## 世界で活躍できる次世代の育成及び誰もが暮らしやすい社会の実現

TICAD IVを契機に、横浜の小中学校とアフリカとの交流が始まり、TICADV、TICAD7の開催を経て、交流の輪が拡大し、これまで交流を行った小中学校は、延べ200校以上となりました。今後も、アフリカとの友情の発展・継承と国際人材の育成に貢献していきます。



JICA 青年海外協力隊経験者がエジプトを紹介（小菅ヶ谷小学校）（2023年6月）

また、2023年度より、中学校給食にアフリカメニューを採用するなど、生徒がアフリカを身近に感じ、国際理解を深めるきっかけとなるような取組も行っています。



中学校給食にケニアの家庭料理が登場（2024年5月）

## ビジネス機会の創出・拡大

### ビジネスセミナーの開催

JETRO 等と連携して開催する「アフリカビジネスセミナー」では、アフリカのビジネス環境や、市内企業のアフリカへの進出事例などを紹介しています。



市内でのセミナーの様子（2024年5月）

### アフリカにおける女性のビジネス・起業の推進

2013年のTICADVをきっかけに、毎年アフリカ各国からビジネスウーマンと関係政府職員をJICAの研修員として受け入れ、女性の起業支援に関するセミナーや、市内施設の視察受入れを行っています。2023年度までに29か国140名以上が参加しています。



日アフリカ・ビジネスウーマン交流プログラム（2024年3月）

### 横浜市のパートナー

#### （一社）YUSA（YOKOHAMA URBAN SOLUTION ALLIANCE）

YUSAは、新興国における都市課題の解決を通して、公民連携による国際協力の推進と、市内企業のビジネスチャンス創出を目的とした組織です。



YUSA  
ホームページ

### 「ABE イニシアティブ」の活用サポート

将来的なアフリカ進出の水先案内人として期待される人材とのネットワークづくりのため、市内企業による「ABE イニシアティブ（※）」留学生のインターンシップ受入を積極的にサポートしています。



日之出産業株式会社におけるインターンシップ（2019年8月）

※アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（ABE イニシアティブ）：日本政府とJICAによる、アフリカの若者を対象とした、日本の大学での修士号取得と日本企業でのインターンシップ・人的交流の機会を提供する産業人材育成プログラム

### アフリカでの市内企業の活動支援

横浜市が持つ都市間連携を含むアフリカとの協力関係を活かし、市内企業の活動を支援してまいります。これまで、企業とともに国際局職員が現地へ赴き、横浜市とアフリカの良好な関係性のPRや、ビジネス関係者とのネットワーキングを行いました。



コートジボワールでのセミナーの様子（2019年7月）

#### （公財）横浜企業経営支援財団（IDEC 横浜）

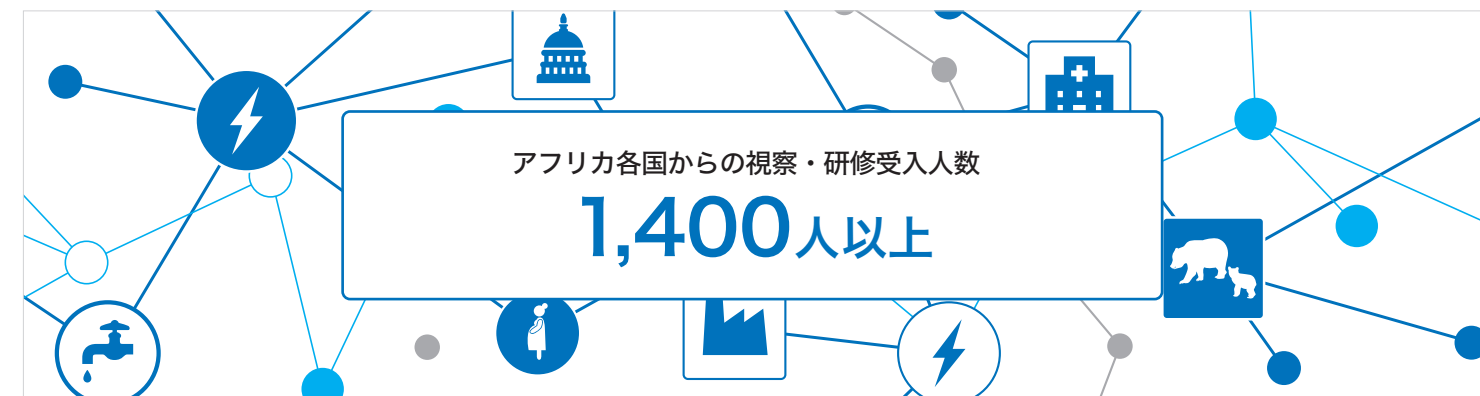
IDEC 横浜は、海外ビジネスに関心のある市内企業を対象に、アフリカを含む海外ビジネスに関する相談対応を行っています。また、セミナー開催等の情報提供や、海外展示会出展の支援に助成金制度を設けています。



IDEC  
ホームページ

## 国際協力の一層の推進

1859年の開港以来めざましい発展を遂げた横浜だからこそ、今急速に発展を続けるアフリカの都市と共有できる技術やノウハウがあります。横浜市は、独立行政法人国際協力機構（JICA）や政府、国際機関、市内企業と連携し、水道、廃棄物処理、港湾、野生動物保護、保健衛生、まちづくり等様々な分野でアフリカの発展に寄与しています。これまで、アフリカ各国から1,400人以上が視察や研修に訪れました。



### 水道

日本で初めて「近代水道」を開始した横浜市では、1976年にケニアへ職員を派遣して以来、アフリカへの水道分野の協力を続けています。2024年3月末までにアフリカ47か国から延べ729人の研修員を受け入れ、横浜市からも延べ90人の職員をアフリカ13か国に派遣しています。特にマラウイには継続的に職員を派遣し、JICA技術協力プロジェクトにも協力してきました。



横浜でのアフリカ各国の技術者研修（2023年10月）



マラウイでの活動（2024年7月）

### 廃棄物管理

横浜市では、2001年度以降の10年で約43%のごみを減量した経験をもとに、環境省・JICA・アフリカ各国等と共同で設立した「アフリカのきれいな街プラットフォーム（ACCP）」を通じて、アフリカ各国・都市の関係を対象に、廃棄物管理に関する研修を実施しています。



収集事務所の視察（2023年7月）



ごみ収集作業の説明（2023年12月）

### 港湾

横浜市では、毎年アフリカ各国から研修員等を受け入れています。講義では、横浜港の港湾整備開発状況・港湾計画・物流施策・カーボンニュートラルポート形成の取組等について紹介し、視察ではコンテナターミナルやクルーズターミナルを案内しています。2023年度は、アフリカから13か国29名の視察・研修生を受け入れました。



ナミビアからの研修受入れ（2023年9月）



大さん橋での研修受入れ（2023年6月）